

## セミナー報告

# 祈りと音楽

身体と魂の癒しに働きかける死生音楽の紹介セッションが開かれる

講師 Carol Sack

ミュージック・サナトロジスト

ルーテル学院大学附属人間成長とカウンセリング研究所

日野原 重明

(財)ライフ・プランニング・センター理事長

「新老人の会」会長



Carol Sack さん

昨年末の12月1日、内幸町ホールにおいて「祈りと音楽」をテーマに「新老人と家族の会」コンサートが行われました。今回は第一部のハーブを使ったセッションで「死生音楽 (Music-Thanatology)」についてお話しくださったキャロル・サックさんの講演内容をご紹介します。

### 臨終の癒しと音楽

臨終の場に音楽を用いた古い記録は、千年以上も昔に遡ります。フランスのクリュニー地方にある修道会の活動の中に見出されます。修道士たちは、私たちが神秘的なものを経験する一つの方法として、美との触れ合いがあると強く感じていました。特に聖歌を、朝昼夜と歌い、聖なる意図をもって歌われた音楽は、永遠の世界とこの世が交わる場所になると信じられていたのです。

このような働きは近代の病院にも引き継がれたのですが、現在とはもすると身体のためのケアのみに目を奪われがちです。アメリカの病院でもその点では充分ではありません。中世の修道士たちは死に逝く人を一人にせず、聖書の言葉を唱え、聖歌を歌いながら温かく包み込んだのです。そして、永遠の終わりを意味する「死」という言葉を用いずに「Transitus (移行)」と呼び最高のケアと敬意をもって接しました。

### ミュージック・サナトロジストの活動

私は1年前に、アメリカ・モンタナ州にある

Chalice of Repose School of Music-Thanatologyの2年間のコースを修了しました。このコースの修了者は50人を数え、アメリカ、イギリス、カナダ、スペイン、オランダ、イスラエル、オーストラリアそして日本で活動しています。その活動内容は音楽介護士のようなもので、単なる演奏や枕もとのコンサートとは異なります。まず患者さんの脈や体温を測り、呼吸を数えて見守ります。そして、ハーブ、歌声、時によっては静寂の中で見守りつづけるだけの場合もあります。あくまでもコンダクターは患者さん本人であり、たとえ意識がなくても深い尊厳をもって対処していきます。私たちは患者さんとともにいるこの時をラテン語で「良く見極める」という意味の“Vigil”と呼んでいます。

### ハーブを用いたVigilの時

私たちは20曲ほどのレパートリーを持っておりませんが、ハーモニーやテンポ、構成、伴奏など組み合わせを変えることで、無限の展開となります。これを「薬となる音楽 (prescriptive music)」と呼びます。楽器として用いるハーブは、メロディラインだけではなく、ハーモニーを奏で、震動を伝えることもできますから、看取りの楽器としては最適でしょう。また楽器の中では最も古い起源をもち、旧約聖書の中でダビデがサウル王の心の苦痛を静めた楽器

としても有名です。

### 患者さんの枕もとで

私は日本で活動を始めましたが、忘れがたい患者さんとの経験をお話します。

母である若い患者さんは、ターミナルでありながら、まだ死を受容しておられませんでした。夫も気持ちは同じでした。そのような状況で私はベッドサイドに呼ばれました。最初に訪れた時、彼女は私に「これはどのような音楽なの」と問いかけました。私は「あなたの身体と精神の働きを助けるものです」と説明すると、彼女は納得しました。静かにケルトの子守唄を弾き始めると、彼女は涙を流し始めました。私は自分の選んだ曲が彼女には強すぎたのではないかと考えましたが、彼女は「ありがとう、ありがとう」と何度も繰り返しておっしゃり、「手術の後、今日はじめて自然に泣く事ができました」とおっしゃったのです。彼女の涙は、心の苦しみを洗い流し、魂を浄化させる涙だったのでしょう。次に病室を訪れた時、彼女は強い痛みに襲われていました。しかし患者さんの表情は大変穏やかでいらしたのです。どうぞわかってください、私の心は平安なのです。彼女は仏教徒ではありましたが、大いなる愛に包まれているのだと告げると、彼女は大変美しい言葉でこう表現してくださったのです。「キャロルさんの音楽は、死は普通とは違う経験だと教えてくださいました」と。あとでうかがったのですが、演奏を始めて15分後から痛みはなくなり、演奏が終わった後でさえそれは1時間も継続したとのことでした。

これは、音楽の力であり私自身の力ではないのです。

私の祈りはどんな時でもこの愛をもって提供される音楽を通して、患者さんが神様にとって、私にとって、またこの世にとって貴重な存在であるということを感じ、また経験、体験するということです。コレこそが生命そのものの意味であり、深い癒しがそこにあると信じるのです。

報告 平野 真澄



Carolさんと日野原先生の対談の1コマ



会場と一緒に歌う「うたう会」  
指導・指揮 松崎陽治さん/ピアノ 黒田 要さん

#### セミナー予告

スピリチュアルケアフォーラム  
ワークショップ2004

### こころの声を聴く

終末期にある方への傾聴のために

2004年3月8日(月) 10:00~16:15  
内幸町ホール

講師 丸屋 真也 (LPC 臨床心理博士)  
栗山 登至 (LPC ピースハウス  
ホスピス医師)  
日野原重明 (LPC 理事長)

参加費 会員 4,200円/非会員 5,250円

詳細は次号にて